

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



甲状腺がん 手術編 020：「PS・アイ・ラブ・ユー」

2017年4月3日（月）



『超さっぱり！』

トキは心の中で叫びました。手術から5日後、この状態でも上から肌色の医療用のテープを貼れば、シャワーが浴びられるのです。ねっとりしていた髪の毛も、サラサラになりました。テープのつっぱりで、頸の稼働は、より制限されていますが、かなり目立たなくなるので、何となく落ち着きました。貼っておいた方が治りもよく、また紫外線による痕の変色も防ぐのでいいそうです。

しかし、相変わらず、耳たぶから鎖骨の下辺りまでは、しびれて感覚はありませんでした。

虫歯を抜く時に麻酔をする、あの感じが広範囲にあります。洋服の上から触られている感じというか、あまりにも変な感じですよ。喉の部分は触られている感触すらありません。つねっても痛くないのです。

因みに左腕が肩より上に上がりません。上げようとしても上がらないのです。不思議な感覚です。

U先生曰く、「**少なくとも3か月はこの状態、あとは個人差・・・**」言葉を選んでいるようですが、

要するに、**元の状態には絶対に戻らないとのこと**です。

僅かに飲み込む時の痛みが和らぎましたが、甲状腺と共に、その周辺の筋肉が無くなった感じです。よって、飲み込む力が弱すぎます。食事は相変わらず、朝、昼、晩と『粥』、他も殆ど汁状でしたが、それでも、トキは、かなり苦戦していました。



夕食後、トキは久しぶりに、映画『P S・アイ・ラブ・ユー』のDVDを見ました。脳腫瘍で死んだ彼が残したサプライズに、彼女が戸惑いながらも悲しみを乗り越え、前に進んでいくことに気付いていくという、ラブストーリーです。徳永英明が歌う日本版エンディングテーマの歌詞に、こんな言葉があります。

♪ **僕は、かけがえのない人のために灰になろう。**

トキは、あえて、今、この映画を覚悟して見たのです。そして、思いました。

『**この度、もし死んでも、カッコよくありたい**』と。

そして、『**残された家族は幸せな姿を見せることが、僕の追悼になるのだ**』と。

ですが、まだ、そうあってはならないのです。

かけがえのない人のために、**懸命に生きなければならないのです。**

⇒ **021 : 当たり前になるといい。**